

郷土研通信



和名：ナナカマド（バラ科）
別名：山南天（ヤマナンテン）
アイヌ語：イノウニ・マウネニ

発行：てしかが郷土研究会 北海道川上郡弟子屈町
電話： FAX：

令和4年度会員総会開催

新しい展開に 再活動を開始

規約改正 新役員を選出

てしかが郷土研究会の総会が令和4年11月30日、六名の会員が出席し弟子屈町公民館で開催された。

総会では、令和元年から3年までの事業執行状況と決算状況が報告され承認された。引き続き議題の規約改正、役員改選、事業予定と予算案が審議され承認された。菊池会長は、総会終了後退会された。

松橋氏が新会長に

改正された規約により新役員として、松橋秀和氏、平塚一明氏の二名が理事に選出され、新会長に松橋秀和氏が就任した。

当会は、令和元年から総会が開催されていなかった。これについては、令和元年からコロナ禍が席卷したこともあり、また、当会の歴

令和4年度 会長	松橋秀和
理事	平塚一明
理事	右近一雄
	小川義雄
	山本正裕
	齋藤敬子

史資料が収蔵されている「てしかがの蔵」所在地に町が「弟子屈町複合型地域観光交流拠点整備運営事業」を計画し、「てしかがの蔵」建物を取り壊すこととなった。これに伴い、当会の歴史資料は教育委員会に移されていた。これらが開催できなかった理由の一つであった。

今後の活動と課題

てはならない。

資料の現状を視察

「てしかがの蔵」に収蔵されていた資料は、摩周観光文化センター内の更科源蔵文学資料館に移動することになり、令和三年度中に教育委員会社会教育課の職員と当会会員で作業を行った。今後の当会の活動は、教育委員会が行う弟子屈町の歴史資料を収集、保存、活用する事業に共同で行うことになる。また、当会の目的を遂行するためには志を同じくする会員を募らなく

総会では、分散している郷土資料の状態を視察する旨の提案があり、教育委員会と日程を協議することとした。また、視察の結果を「要望書」にまとめて、町に提出することを検討する旨の意見があった。

（松橋 筆）

新会長あいさつ

この度、改正された規約により会長に就任いたしました。

郷土資料が弟子屈町教育委員会に移管され、移動したことによって、今までの活動とは異なった方向になりますが、我々の究極の目的は「弟子屈の町の失われて行く記憶を資料・史料として留める」ことにあり、この目的は今後も変わりません。

弟子屈に生まれ、暮らした人たちの心の拠りどころとなるような活動を会員皆様のご理解とご協力をいただき、行っていきたくと思います。

